

横浜市環境創造審議会 第1回雨水浸透機能促進方策検討部会 議事録(案)	
議 題	1. 雨水浸透機能促進方策検討部会の進め方 2. 雨水浸透機能促進方策の現状と課題 3. その他
日 時	平成21年3月30日(月) 15:00~17:00
場 所	関内中央ビル 3階 会議室
出席委員	河野 正男、長岡 裕、檜垣 宏子、岡 泰道、高見澤 邦郎、吉中 保(6名) 敬称略
欠席委員	なし
開催形態	公開
資 料	1 議事次第 2 資料1 雨水浸透機能促進方策のあり方について(諮問) 3 資料2 雨水浸透機能促進方策のあり方について(諮問資料) 4 資料3 横浜市環境創造審議会(雨水浸透機能促進方策検討部会)委員名簿 5 資料4 横浜市環境創造審議会条例及び運営要綱 6 資料5 雨水浸透機能促進方策検討部会の進め方 7 資料6 雨水浸透機能促進方策の現状と課題

開 会

事務局挨拶

部会長の選出(河野委員を部会長に決定)

議 事

1 雨水浸透機能促進方策検討部会の進め方について 資料5 参照

(事務局)

資料1及び資料2により、諮問の趣旨を説明。

2 雨水浸透機能促進方策の現状と課題について 資料6 参照

(事務局)

資料6により、雨水浸透機能促進方策の現状と課題について説明。

(長岡委員)

水と緑の基本計画にも流域単位とありますが、水収支を流域単位で表現することができるか伺いたい。

(河野部会長)

過年度と比較した水収支の資料があるか伺いたい。

(事務局)

過去の土地利用のデータがあれば分析は可能です。また、流域ごとに評価した場合、各流域の特徴も出てくると思いますが、全市域的なデータの収集・分析は困難です。今回は、浸透が2割程度しかないことを、表現しております。

(岡委員)

水収支で、浸透の数字の算出手法を伺いたい。

(事務局)

簡易的なタンクモデルにより土地利用を評価し算出しております。

(岡委員)

蒸発散量の算出手法を伺いたい。

(事務局)

過去に算出したシミュレーションにおけるパラメータを利用して算出しております。

(長岡委員)

平常時の河川水量への影響について、小河川のデータがあるか伺いたい。小流域は、雨水浸透の効果が見えやすいと思います。

(事務局)

1つの小さな流域で過去と今とを比較したものはあります。

(岡委員)

大きな流域の場合、浸透効果が誤差の範囲に入ってしまうため、浸透効果を見えるような形で把握することが難しい。

(河野部会長)

次回以降のことを念頭に置き、流域毎の資料を確認してもらえればと思います。今回の資料は、治水対策が強く出ているように思いますが、健全な水循環の回復についても同様に考えていくことが、市民に対してもPRしやすいと思います。

(檜垣委員)

浸水対策だけでなく、ヒートアイランド対策や生物多様性といった部分の健全な水循環も検討できたら良いと思います。

(事務局)

良好な水循環をつくり、河川の平常時水量もなるべく多くすることは非常に望まれるところだと思います。水量が豊かになれば、ヒートアイランド対策などの効果も期待できると思いますが、水循環の効果は副次的で、定量的な表現は困難です。定量化できるような知見、知恵があれば、取り込んで市民の方々に出していきたいとは思っています。

(檜垣委員)

透水性舗装の試算で35%程度浸透が期待できるというのは、何年たっても大丈夫なのか伺いたい。

(事務局)

1年に1回程度、維持管理をした場合の試算となります。

(吉中委員)

透水性舗装は、昭和40年代後半から、歩道を中心に検討されてきました。舗装の基本的な考え方は、道路の中に水を浸透させないことが大原則です。しかし、特定都市河川浸水被害対策法の施行により、特定の河川流域を開発する際には、開発行為以前の流量を超えてはいけないこととされました。最近では特に車道で、水を浸透させない構造から一步踏み出し、舗装構造そのものの技術開発が進んできています。そうした中で、材料的にも改良が進んできており、完全ではないが、例えば水を通しやすいような構造にしながら耐久性を有するという方向で開発が進むだろうと期待しています。

現状の歩道や駐車場は、多くが透水性を有するものになってきていると思います。車道には排水性舗装があるが、これは路盤以下に水を通さない構造となっています。

(岡委員)

排水性舗装や透水性舗装の場合でも、車道の下路盤というのは、透水性はほとんど期待できない。そのため、浸透させるためには側面に浸透させる以外にないと思います。

(吉中委員)

特定都市河川浸水被害対策法に対応した方法では、基本的に路床付近まで浸透させる方向です。

(岡委員)

貯留と浸透を組み合わせると言うことが重要だと思います。

(檜垣委員)

湧き水が下水道に直接流れてしまうともったいないと思います。雨水貯留機能も組み合わせ、考えていけたら良いと思います。

(高見澤委員)

NPOや市民団体の多様な興味、関心、意欲などをバックアップすることで、今回の雨水浸透の目的にも通じるという視点が出てくると良いと思います。また、PRも重要だと思いますが、長い年月で、多様な政策や施策につながっていく展開も良いと思います。

(岡委員)

過去の自治体の事例も参考になると思います。市民の様々な意見を聞きながら進めるやり方などは、多くの方が前向きに取り組めると思います。

(河野部会長)

雨水浸透ますを多くの家庭に普及させるには、市民との協働が大事で、雨水浸透ますについて理解してもらい、やってもらうということも大事であると思います。

(長岡委員)

瀬谷区宮沢の事例が過去のケーススタディーとして参考になると思います。

(檜垣委員)

浸透施設を設置できない所もあると考えると、積極的になれない部分もある。また、設置に必要な費用も良く分からなかった。

鶴見川流域は、治水の学習をしている人が多くいるので、浸透の目標とする数字などがあれば、市民は協力してくれると思います。

(事務局)

設置できる箇所とできない箇所が出てくるのが、難しい部分であることは認識しています。行政は安全な場所に設置を進めることとなり、結局、限定された場所となっています。しかし、市民の方が積極的に雨水浸透を進め、行政が留意すべき要素をお伝えしていけば、浸透施設の設置数は進むと思っています。全市どこにでも設置できるという分けではないことが大きな課題となっています。

(檜垣委員)

新築の家は、安全が確認される場合、最初から設置するなど、リスクとデメリットをしっかりと情報提供すれば、理解してくれる人は、多くなってくるのではと思います。また、市内で完結された流域は、市民の方が協力してくれることも多いと思います。

(岡委員)

設置場所などは、技術指針を参考にして決めていけば良いと思います。

(高見澤委員)

浸透ますは見えないためアピール力がないと思います。貯留タンクなどと連携していくと良いと思います。

また、都市計画として進めていくには規制というより誘導が良いと思います。都市計画そのものに組み入れると、説明の合理性が必要となります。

(事務局)

横浜の地形の場合、設置に安全な場所は限定されてしまいます。浸透ますを普及させにくい地形を、横浜は特質として持っていると考えています。

また、貯留機能との連携は、市民の方が、全員が水循環という行動に参加する方法としては非常に良いと考えています。浸透に適した場所は浸透する。浸透に適していない場所は貯留した水を晴れた日などにまいて、地下に水を浸透させることに参加する。

それによって水循環に協力しているという意識を、持ってもらうようになると、規制しなくても、水循環に参加する社会形成ができるのではないかと考えています。そのための仕組みを検討していきたい、いろいろなご意見をいただきたいと思っています。

(吉中委員)

行政が管理する土地として考えると、道路は大きな面積を占めています。道路面積部分に降った雨を処理することができれば、大きな効果があるだろうと思います。

市民の方の目に付くような場所で試験的に行うとか、既に施工された場所に看板などを設けて、わかりやすいような形で提示するというPRを兼ねた方法もあると思います。

(岡委員)

貯留機能との連携というのは、雨水利用とセットで、水の意識を高めていくことは非常に効果があると思います。また、道路以外にも公共の土地に集中的に浸透施設を導入すると良いと思う。さらに、ゲリラ豪雨対策は浸透だけでは不可能であるため、貯留施設と組み合わせなくてはいけない。ボリュームで抑える部分はどうしても出てくると思います。

(河野部会長)

宅地については、市民協働で浸透ますを普及させることが大事。また、道路については、市の役割が非常に大きい。しかし、ただ浸透させるだけでなく、貯留機能をセットで考えることが重要であると思います。

(長岡委員)

市民にわかりやすい効果という意味では、身近な水辺の湧水量とか平常時水量が増えることだと思います。定量化は難しいことは分かりますが、今後、モニタリングなど研究を続けていくなどの視点も重要であると思います。

3 その他

(高見澤委員)

流域の自治体の中で、いくらか先行することが望ましいが、流域として構成されているのだから、その中で自治体にこだわらない展望も今後あるのかと思います。

閉 会